

IV-71 道の駅の地域連携と地域振興効果に関する基礎研究

岩手大学大学院 学生員 ○李 日星

岩手大学 正 員 安藤 昭

岩手大学 正 員 佐々木 栄洋

岩手大学 正 員 赤谷 隆一

1. 研究の背景と目的

平成5年度「道の駅」の登録・案内制度が発足して以来、多くの道の駅が誕生した。道の駅の増加は今後も続くと予想される。道の駅が道路休憩施設を核とした地域振興施設と位置づけられるが、道の駅が地域にもたらす地域振興効果はその特性によって異なると予測される。

道の駅の「地域連携機能」とは、道の駅を契機とする広域的な連携と交流により、活力ある地域づくりが促進されることである。地域が一体となって「道の駅」をつくるとともに、「道の駅」も地域と地域が道を軸として協力するなど、地域内及び地域間の連携の場となる。ところが、道の駅の地域連携の課題、及びその効果はまだはっきりされていない。

本研究は、平成11年度において登録されている岩手県の17箇所の道の駅を対象として、異なる特性もっている道の駅の地域振興効果を分析するとともに、地域連携においての問題点と連携効果の計測を試みるものである。

2. 研究の方法

(1) 調査の内容

①道の駅の現況について

岩手県内の道の駅の特性を抽出するために、道の駅の現況に関する調査を行った。調査内容は、道の駅の管理・運営、地域住民の参加、地域連携、施設整備状況に関する項目から構成された。

②地域振興効果の分析について

地域振興効果の計測には回答者の主観的判断に基づく構造モデリング手法であるDEMATEL法を用いた。その理由としては、複雑な道の駅の地域振興効果の構造に対して、分析者の視点に基づく枠組を用いてアプローチすることができる点、経済的効果などを数値として計測できる部分以外への効果も大きいと予想される点が考えられる。

評価項目は岩手大学工学部都市工学研究室が行った先行研究の成果を基に15項目に絞り込んだ。次に、これらの項目が他の項目に対して、どの程度直接的な

影響を与えているかを「全く与えない」から「極めて強い」までの6段階で回答者に評価してもらう方法を用いた。

③地域連携について

地域連携において課題として7項目、効果として12項目を設定した。課題に対しては「問題がない」から「問題がある」までを、効果に対しては「効果がある」から「効果がない」までの5段階を評価してもらった。それらの解析には系列カテゴリー法を用いた。

3. 調査実施概要

現況調査は平成12年度の8月中に行った。岩手県内の各道の駅を訪ねて道の駅の管理者に対してヒアリング調査を実施した。

「地域振興効果」及び「地域連携」に関する調査は、岩手県の17箇所の道の駅の駅長に調査票を送って回答してもらった。調査の実施期間は平成12年10月2日から25日まで、有効回収票は14票である。

4. 調査結果及び考察

(1)道の駅の現況について

本稿では、現況調査による結果の中から道の駅の特性について報告する。岩手県の道の駅をそれぞれが持つ特性により7つのタイプに分類し、分類結果を図1に示す。

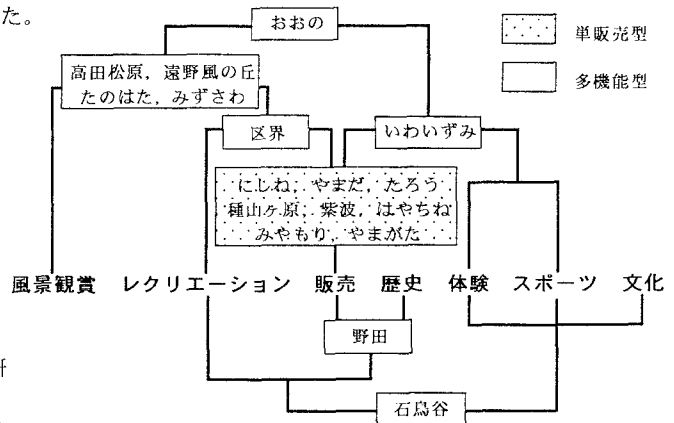


図1 岩手県内の道の駅の特性³⁾

県内の道の駅は全体として販売型(8/17)に偏っており、歴史(2/17)型・文化型(1/17)施設を備えた道の駅が少ない。

(2)地域振興効果について

岩手県の道の駅を「単販売型」と「多機能型」の2つのパターンに分けてそれぞれその地域振興効果を分析する。それぞれの地域振興の基本構造を図2、図3に示す。矢印は解析により得られた影響の大きさと方向を表している。

各指標間の相互影響の算出に際しては、各指標に含まれる項目の数が異なることを考慮して平均の値を用いる。

単販売型の道の駅(図2)と多機能型の道の駅(図3)とも、「Ⅰ.道の駅の設置」が最も効果を与える指標は「Ⅴ.地域間交流の促進」、次いで「Ⅲ.産業・経済の振興」である。

多機能型の道の駅の地域振興効果(図3)では、「Ⅴ.地域間交流の促進」は「Ⅳ.人材の育成」から

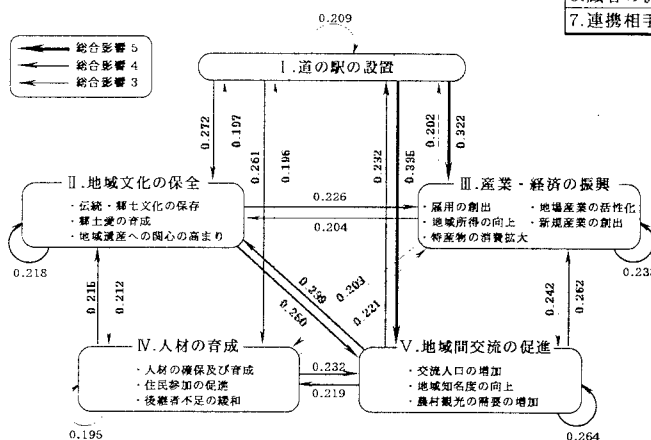


図2 単販売型の道の駅の地域振興効果の基本構造

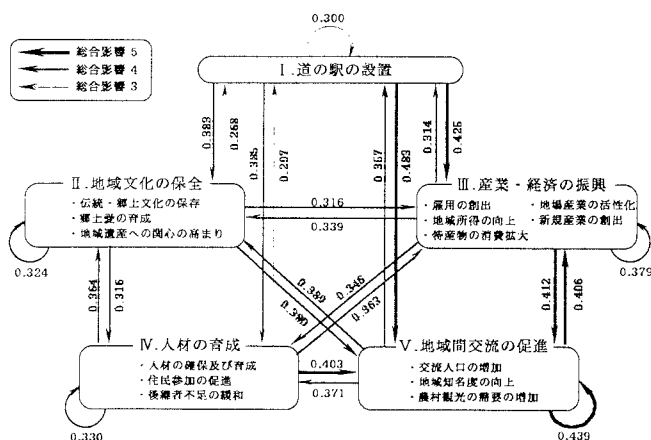


図3 多機能型の道の駅の地域振興効果の基本構造

表1 道の駅の地域連携機能による効果

道の駅の地域連携機能による効果	評価値	評価順位
1.農林水産業の振興	-0.214	5
2.商工業の振興	-0.116	4
3.観光・リゾートの振興	0.085	1
4.地域環境の向上・改善	-0.214	6
5.文化・教育の多様化	-0.396	8
6.余暇・娯楽の多様化	-0.499	10
7.自然環境・生活環境の保全	-0.694	12
8.消防・救急活動・防災対策の向上	-0.591	11
9.祭り・イベントの活性化	0.078	2
10.地域住民との交流の増加	0.072	3
11.道の駅のサービスの向上	-0.305	7
12.新たな雇用の創出	-0.402	9

表2 道の駅の地域連携における課題

道の駅の地域連携における課題	評価値	評価順位
1.地域連携に必要な財政的余裕	0.379	2
2.地域連携に必要な時間的余裕	0.474	1
3.地域間交流に対する意欲	-0.188	4
4.連携相手相互の情報	0.001	3
5.連携効果の見通し	-0.472	7
6.顧客の流出・競争の激化	-0.283	6
7.連携相手との意見調整	-0.189	5

強い影響を受けている。「Ⅲ.産業・経済の振興」と「Ⅴ.地域間交流の促進」との間では、強い影響で結びついていることがわかる。

多機能型の道の駅の地域振興構造図で、太い矢印の本数が多く、各項目間の関連が強い。ここから、多機能型の道の駅が他の地域振興策と結びつきが強く、地域振興において最も効果的であると考えられる。

(3)地域連携について

道の駅の地域連携機能による効果(表1)で、効果が一番高いのは「観光・リゾートの振興」である。二番目に高い効果は「祭り・イベントの活性化」である。

道の駅の地域連携における課題(表2)で、一番多く取り上げているのは「地域連携に必要な時間的余裕」と「地域連携に必要な財政的余裕」である。

【参考・引用文献】

- 1)大泉 剛・安藤 昭・佐々木栄洋・赤谷隆一:
「東北地方における道の駅の現況及び地域振興効果の計画について」、1999年度第34回日本都市計画学会学術研究論文集, No.82,pp.487~492
- 2)大泉 剛:「北上川流域圏における早池峰エコミュージアムの展開手法に関する基礎研究」、2000年度岩手大学博士学位論文
- 3)安藤 昭・佐々木栄洋・赤谷隆一・大泉 剛:
「道の駅の展開手法に関する調査報告書」、1999年度3月、財団法人 東北開発研究所